

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（概評）

【音楽・一般】

教科用図書北諸県採択地区協議会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

（観点１） 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 単元の構成については、表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、教材と選択可能なオプション教材・資料を組み合わせで扱うことができるような工夫がされている。歌唱、鑑賞、創作の分野が関連付けて構成されており、学習内容や教材が一目で分かるように「学習MAP」として示す工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育むことができるように、一つの題材内で、教材の特徴を生かして関連・対照・対比できるような教材を設定したり、表現活動と鑑賞活動を組み合わせたりと実感を伴った学びになるような工夫が見られる。</p>
27 教育芸術社	<p>(1) 単元の構成については、表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、ねらいに応じて教材や学習活動を選択することができるような工夫がされている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」と対応する題材が構成され、一目で分かるように見開きのページで示す工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら資質・能力を育むことができるように、音楽を形づくっている要素を明確に示したり、要素の関連性を重視した表現教材と鑑賞教材の組み合わせを可能にしたりと、何を学ぶか意識しながら学習できるような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

(観点2) 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年の鑑賞領域に、「話し合おう」のコーナーが設けられ、自分の考えや感じ取った曲想、共通点や相違点等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、「学習MAP」ページ下にある「学習の進め方」により「音楽を形づくっている要素」を示し、それを軸にした目標を確認しながら学習を進められるような工夫が見られる。また、聴き取ったり感じ取ったりした内容について、要素と関連付けてまとめられるように示されている。さらに、各教材ページ端に、用語や記号などの共通事項や特徴的な楽典の内容が取り上げられ、巻末の「楽典」とつなげる工夫が見られる。</p> <p>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、吹き出しによって、「思考力・判断力・表現力等」を促すための学習活動のポイントや学習内容に関連した項目を示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作のワークシートに直接書き込み、学習状況を確認したり、保存したりできるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、全学年にわたって「コンピューターで表現しよう」「音楽著作権について」「劇場・音楽堂へ行こう!」「ポピュラー音楽図鑑」「日本と西洋の歩み」「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」などの資料ページが掲載され、音楽科の学習と学校外における音楽活動とのつながりが確認できるような工夫が見られる。また、全学年で「口唱歌」に取り組むページが掲載され、我が国の伝統的な音楽を身近に愛着をもって感じられる工夫が見られる。さらに、各学年の「どんな特徴があるかな」のまとめとして、2・3年下の「プレゼンしよう」が設定されており、既習曲を自ら研究し、音楽を形づくっている要素に着目し、3年間の学びの成果を他者に伝えることで、これまでの学びを再確認するような工夫が見られる。</p>

27 教育芸術社	<p>(1) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、1年、2・3年上の表現・鑑賞領域に「学びのコンパス」のページが設けられ、自分の考えや感じ取った曲想等をまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、各教材ページ端に示された「音楽を形づくっている要素」を表現（歌唱、創作）や鑑賞の学習活動において焦点化し、意識しながら活動できるような工夫が見られる。また、巻末の「音楽を形づくっている要素」のページでは、各要素の説明と関連する教材のページが示されている。さらに、各教材ページ端に用語や記号などの共通事項が新出時に取り上げられ、巻末の「音楽の約束」とつなげる工夫が見られる。</p> <p>(3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、キャラクターの吹き出しによって、「思考力・判断力・表現力等」を促すためのヒントを多く示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作ツールで、作品例やワークシートを再生して確認したり、繰り返し思考したりすることができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すために、学年に応じたテーマを基に、人々の生活や音楽との関連を段階的に考える資料や教材が提示され「日本音楽入門」「社会を映し出す音楽」「ミュージカル」「ポピュラー音楽」など特集ページが掲載され、学習した題材をジャンルごとに整理し、学びを深められるよう示されている。また、日本音楽を学習する場面で「図形楽譜」を用いることで、節回し等を体感しながら活動することができ、伝統的な音楽を身近に感じられる工夫が見られる。さらに、全学年にある「音楽の学びを振り返ろう」では、学習内容と音楽を形づくっている要素に着目しプレゼンテーションする場が設けられており、他者に伝えることでこれまでの学びを再確認し、次の学年の主体的な学びにつなげることができるような工夫が見られる。</p>
----------	--

3 利便性の向上

(観点3) 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページでは音楽界の第一線で活躍している方からの音楽に対する思いや中学生へのメッセージが掲載されている。また、学習内容を視覚的に示すために、折り込みを使った写真の掲載やイラスト、色分けなどの工夫が見られる。</p> <p>(2) 資料について、歌唱では、「sing! sing!」のページで歌うための姿勢や発音などをチェックしながら確認できるように分かりやすいイラストで示す工夫がされている。鑑賞では、「Let's Try!」のページで楽曲に関する体験活動を通して、日本音楽の特徴や曲の仕組みについて理解を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>(3) 個別最適な学びを可能にするために、生徒自身が必要な時に適宜、二次元コードを読み取り、動画や音源を視聴しながら学習を進められるような工夫が見られる。</p>
27 教育芸術社	<p>(1) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページでは音楽をより身近なものとして捉えられるよう各界で活躍する方から中学生へのメッセージが掲載されている。また、キャラクターの会話により学習活動のポイントを示すなど、生徒の気付きを促す工夫が見られる。</p> <p>(2) 資料について、歌唱では、全学年「My Voice!」のページで、歌うための姿勢や歌声づくりについて説明し、第1学年では声の出る仕組みや変声期について理解できるよう工夫されている。鑑賞では、日本音楽やポピュラー音楽などについて見開きのページで詳しく掲載されており、音楽文化をより身近なものとして感じられるよう工夫されている。</p> <p>(3) 個別最適な学びを可能にするために、二次元コードの創作ツールを活用することで、生徒自身が作成した旋律を聴きながら試行錯誤できる活動を促すような工夫が見られる。</p>

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

(観点4) 本地区の生徒の実態や課題に対応し、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育てるために、どのような工夫が見られるか。

発行者	概 評
17 教育出版	<p>(1) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら楽曲の良さに気付き、音楽を表現する態度を育むために、「Active!」のコーナーでは、生徒が主体的・協働的に学習を進め、学び合うための活動内容が示されている。また、「話し合おう」のコーナーでは、自分の考えをまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が音楽を形作っている要素を基に、音楽の見方・考え方を働かせて、表現や鑑賞の学びを深めることができるようにするために、各ページの端に題材名が示されており、育成を目指す資質・能力が明確になっている。また、曲名の下にある活動のポイントや作曲者からのメッセージが掲載されており音楽的な見方・考え方のヒントとなるような工夫が見られる。</p>
27 教育芸術社	<p>(1) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら楽曲の良さに気付き、音楽を表現する態度を育むために、「Let's Create!」では、グループで協働しながら学習を進める教材が取り上げられている。また、課題意識をもって対話できるよう、意見交換する様子が吹き出しで示されたり、「学びのコンパス」で「注目するポイント」が示されたりしており、主体的・対話的な学びを導き出すように工夫されている。</p> <p>(2) 生徒が音楽を形作っている要素を基に、音楽の見方・考え方を働かせて、表現や鑑賞の学びを深めることができるようにするために、各教材で特に考えたいポイントが示され、課題意識をもって学習に取り組める工夫が見られる。また、「学びのコンパス」の「深めよう!」では、見方・考え方を働かせる手立てが明示され、深い学びを実現するための工夫が見られる。</p>